

高松塚古墳壁画及びキトラ古墳壁画の修理について

- 従来、高松塚古墳壁画及びキトラ古墳壁画の修理作業においては、図像の色料に染料が用いられている可能性が否定できないことから、図像部分は応急処置にとどめ、本格修理は余白部分を中心に実施してきた。
- 特に、高松塚古墳壁画のうち東西女子群像の赤衣及び黄衣については、色料として染料が用いられた可能性が指摘されていた。
- 材料調査（蛍光X線分析，可視分光分析）の結果，いずれも鉄系顔料である可能性が高いこと，現在考えうる染料の特徴とは一致しないことが示された（資料4）。
- これを受けて，平成26年度からは，従来の余白部分に加えて，図像部分についても慎重に本格修理（紫外線照射等を含む）を開始する。
- 高松塚古墳壁画のうち西壁女子群像の赤衣像裳については，いまだ色料として染料が用いられている可能性が否定できないことから，当該部分周辺に対して本格修理を行う際にはマスキングを行う等の配慮をし，慎重を期す。